

北アルプス 不帰 I 峰尾根、III 峰C尾根

小暮

【日 時】 2008年4月26日(土)～4月29日(火)

【メンバー】 田邊(一) (L)、小暮、笹川

不帰東面は今年の3月にIII峰B尾根を登ったときもそうであったが、他のパーティに出会うこともなく、自分達の実力を存分に試すことが出来、手応えのある雪稜ルートが並んでいる。このGWは日数のかかる I 峰尾根を登り、残った日程でIII峰のA尾根かC尾根をやろうという計画である。

3月に眺めた I 峰尾根は重厚長大であるが岩峰も断壁を除いては顕著なところもなくさほど難しく無いだろうと思われた。実際には雪が落ちてかえって露岩が出ていたり、シュルンドの処理などが厄介だったりと時間が掛かった。当初の計画では2日目に I 峰を越えて唐松岳とIII峰のコルの付近に泊まるつもりだったが、2日で抜けることができなかった。

I 峰尾根へのアプローチは、八方尾根スキー場のトップから八方池まで登り、そこから沢伝いに下降する。かなり急な雪面となるので慎重にダブルアックスを使いバックステップで降りる。周囲はガスに包まれているので沢床まで慎重に下っていく。下りきったところから本流を詰めていくと、唐松沢と不帰沢の出会いとなる。不帰沢を少しあがったところからルンゼを登って I 峰に取り付く。



I 峰下部

雪壁を登っていきとしいにブッシュとなり、シュルンドを右に左にかわし、更に雪の無くなった草付や垂直の灌木登りとなる。ザイルを出さずに登ってしまったが、出してもよいかもしれないという程度。藪とシュルンドに苦勞して稜線に出る。稜線上に平らなところがあったので、スノーリッジを切崩して幕場とする。

2日目はロープをずっと使う1日となる。下部は藪とスノーリッジの処理が大変で、踏んでも固まらない雪がぐずぐずの状態となっている。1 P目は急な雪壁となっており一部岩が出ている。藪を絡めながら右側からロープを出す。ロープ40mで雪の割れ目のところでピッチを切る。その先のスノーリッジは易しいのでロープを使わずに越えていく。岩が出てきたところでロープを使う。2P目50m。岩の先は細いナイフリッジとなっており、なかなか面白い。

その先が断壁と呼ばれる核心部だ。遠めに見ても露出した岩壁が聳え立っており厳しそう。ここは、壁の右側に残された残置ハーケンを更に打ち込んでアブミの架け替えで突破した。ガイドには正面のクラックを登るようがあるが、オーバーハングしており掛かっている古い残置スリングには到底手が届かない。ここはもっと雪が多くて残置スリングに手が届く場合にのみ選ぶラインなのだろう。この登りは荷物を背負って登れないので空荷で10mほど登ってピッチを切り荷揚げをしたが結構時間がかかった。上から見て分ったが、岩を直登せずに左側のルンゼを登ってもよい。その場合は、見た目ではIII級程度の岩登りで済むと思う。4P目は更に岩を10m登り雪壁を登る(30m)。



断壁

を縦走するつもりであったので、必死のラッセルで挽回を図る。距離はかなり伸ばすことができたが、I峰のピーク手前には雪庇の下に急な雪壁が見える。ここをロープを出して越えたら日が暮れてしまいそうだ。

このあたりが潮時と、昨日同様狭いスペースを整地してブロックを積み幕場とする。

3日目

昨日のやり残しである最後の雪壁を登る。灌木交じりの登攀だった。雪庇の乗越しも遠目に見るよりも容易にハイマツを掴んで越えることが出来た。9時15分にI峰の頭に立つ。

当初の計画だと2日目にI峰を越え、III峰と唐松岳の間のコルのあたりに幕営して本日はA尾根かC尾根を登るつもりだったが残念だが、予想よりもI峰が難しかったので仕方ない。ここからII峰、III峰、唐松岳を越えて縦走する。II峰は一般道とはいえ北峰までは鎖場が続き、雪で斜めになった斜面を慎重に登る。急な雪壁のトラバースなどもなり眺めが良く楽しい縦走である。唐松岳でのんびりとIII峰を眺める。

翌日は、計画を変更して半日ルートでIII峰C尾根を登ってから下山することにしたので、唐松岳から唐松山荘との間のコルに幕営する。時間をかけて唐松沢側の斜面に半雪洞を掘り、その中にテントを張る。風を避けられる良い幕場となった。

4日目は、ベースキャンプから唐松沢本沢を下降してC尾根に向かう。前回下降したときとは異なり、放射冷却によりカチカチになった雪面を下降するのは少々緊張する。アイゼンは良く決まる



I峰断壁上の雪稜



III峰C尾根P1の岩場

のだが、かなり雪が堅いので一步一步バックステップで降りていった。降りる途中でご来光となりモルゲンロートに染まる岩峰が素晴らしい。

C尾根はP1をどう登るかがポイントとなる。P1は下から見ると圧倒的な岩峰でありどこから取り付けばよいのか非常に悩む。dルンゼをあがっていくとP1には確かに左側から岩を巻くルンゼが2本入っている。登山体系を参考になっているが、おおまかなルートはわかるが細かい部分が見えない。とりあえず絶望的に見えるP1に向けて急な雪壁を登っていくと、残置ハーケンが連なるチムニーがある。乗越し部分が完全に岩だがピンがあるのでルートだろう。右のクラックのラインと、中央のフェースがあるが、右のクラックラインにアブミを使って取り付く。侮れない。



Ⅲ峰C尾根上部の雪稜

岩場の上は右側の雪壁を回りこんでいける。30mほど非常に堅い雪壁を登り、張り出した雪庇の下を5m横にトラバースして後続をビレイする。昨日までと全く異なるアイゼンの爪先しか入らない堅い雪面がとても緊張した。



この調子でずっと悪いピッチが続いたら不安になるが、その先は傾斜が緩み、斜面の向きの関係なのか雪も軟らかくなっている。ランニングコンテで80mほど登る。雪がぐずぐずで足元が崩れるようになってきたので、スタカットに切り替えて50mロープを伸ばす。足元からくずれそうなザラメ雪をトラバース。その先の緩い雪壁も40mスタカットで登ったが、ここはロープを使わなくてもよい程度だったので、時間短縮をしたほうが良かったかもしれない。最後にグサグサの雪壁に35mロープを伸ばすとⅢ峰C尾根の頭に出た。なかなか充実したクライミングであった。C尾根は短くまとまった良いルートだった。最初の2ピッチが核心である。

ふたたび唐松岳の山頂を回ってテント場に戻り、荷物をまとめて下山する。不帰はやはり手応えのある素晴らしいところだ。会心の山行となりました。

【地図】 樺平、白馬町

【行程】

- 4/26 八方尾根スキー場リフト上(10:00)～八方池(10:50)～唐松谷(12:10)～I峰取付(13:20)～I峰稜線上c.1(15:00)
- 4/27 c.1(6:45)～断壁(10:00～11:00)～支尾根合流点(13:55)～c.2(15:30)
- 4/28 c.2(7:45)～I峰(9:15)～II峰北峰(10:15/30)～II峰南峰(11:00)～唐松岳(12:30)～c.3(13:30)
- 4/29 c.3(5:00)～唐松沢(5:40)～Ⅲ峰C尾根取付(6:10)～C尾根の頭(11:10)～唐松岳(11:30)～c.3(11:40/12:15)～八方尾根スキー場リフト上(15:00)